

令和 5 年 8 月 25 日

## R5 年度 第 33 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 実施報告書

実施日： 令和 5 年 7 月 14 日～15 日  
会場： 鹿児島大学 郡元キャンパス 学習交流プラザおよび稲盛会館  
(〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-40)  
参加者総数： 83 名 ( 学生 62 名、教員 19 名、講師 2 名 )  
担当校： 鹿児島大学  
実行委員長 武井 孝行 鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻化学工学プログラム  
学生幹事 代表 山下 祐典 鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻 武井研究室  
庶務 伊藤 拓人 鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻 武井研究室

### 討論会実施内容

鹿児島大学を会場として各自で宿泊先を予約する形式で 2 日間行った。別紙 1 に示すプログラムに従い、第 1 日目は、学生企画①(グループワーク)、学生企画②(特別講演)、および交流会を順に実施した。第 2 日目はポスター発表を実施したのち、学生企画③(博士課程学生の講演)および総合討論を行って本会を閉会した。本会の会計報告書を別紙 2 に記載する。

#### ○学生企画① グループワーク「一枚の紙からはじめるエンジニアリング」

学生企画参加者 66 名を 8 グループに分け、ペーパータワーを作製する企画を行った ( 別紙 3, 図 1 )。この企画では学生間の協力が不可欠となるような状況を与え、学生間での活発な交流を促すことにより、その後のポスターセッションでより踏み込んだ内容での討論ができる環境を提供することを目的とした。グループはできるだけ異なる所属の者同士が一緒になるように編成した。グループ内で意見を出しながら、折り方や積み方を工夫することでペーパータワーを作製した。班のメンバーたちが与えられた紙をどれだけ高く積むことができるかを競った。参加者からは、「紙を高く積み上げるといふ、普段やらないようなテーマの企画で、新鮮かつ面白いと思った」や「探求心をくすぐる内容の企画、遊びの

おかげで、班全員で協力しながら作業することができた。また、初対面の人と楽しく過ごせた。」という意見が寄せられた。

#### ○学生企画② 特別講演会

下記の講師の先生方をお招きし、学生の研究活動や将来設計をエンカレッジするような講演をして頂いた（別紙3, 図2）。

(1) 九州大学大学院 工学研究院 堺 裕輔 氏

「肝臓組織を育て続けた20年～工学と医学の立場から～」

(2) 鹿児島大学大学院 理工学研究科 五島 崇 氏

「なるほどファインバブルの世界 - 泡のひみつを探ろう!」

堺氏には大学卒業論文研究から携わっておられる肝臓の組織の再現法についてご講演頂いた。マイクロウェルプレート内の限られたスペース内で肝臓の細胞を培養することで、細胞が球状凝集体を形成し、それにより細胞の機能が上がることや胆管の再現法を説明頂いた。五島氏には泡に関する研究をご説明頂いた。具体的には、これまであまり調査されていないナノレベルのバブルの生成機構や安定化機構、さらには開発されたバブル発生器の特徴などについてご講演頂いた。学生からは、「細胞培養などは自分の研究分野外であったが再生医療の現状を聞くことができ非常に興味深かった。」や「テレビCMなどでよく見聞きするファインバブルの発生機構などを知ることができて勉強になった。自分の研究にも役立てたい。」という意見が伺えた。

#### ○交流会

学生間の交流を目的に、食事やアルコールの提供をともなった交流会を実施した（別紙3, 図3上）。参加者からは、「このような大人数での会食はこれまで経験したことがなく、非常に楽しく交流を持つことができた。」や「数年ぶりのアルコールをともなう交流会であり、他大学の教員とも良い交流ができた。」との感想が多く、好評であった。また、交流会中に、学生企画① グループワークで優秀な成績を収めた班を表彰した（別紙3, 図3下）。

#### ○ポスター発表

7月15日の9:30から、前半後半に別れて50分ずつポスターセッションを実施した(別紙3, 図4)。学生ポスター発表の申し込みは62件であった。参加者全員が審査員となり、学生と教員ともに2件に投票し、上位11名をポスター賞受賞者として選出した(別紙4)。閉会式にてポスター賞受賞式を行い、賞状および副賞(図書券3,000円)を授与した(別紙3, 図6)。

#### ○学生企画② 博士課程学生の講演「博士への招待」

博士課程への進学が参加学生の進路選択肢の一つとなるように、現役の博士課程の学生に講演をして頂いた(別紙3, 図5)。講演者は以下の通りである。

九州大学大学院 工学府 博士課程2年 樋口 亜也斗 氏

「博士への招待」

「博士課程に進学したきっかけ」、「研究に対するモチベーション」、「博士課程としての研究生生活の送り方」、「博士課程後の進路予定」などをざくばらんに話してもらった。参加者からは、「博士課程へ進むにあたってリアルな感想を述べられていて、より実感が湧いた。」や「研究する姿勢や、研究室の環境づくりなど考え方を学べたので良かった。」という意見が寄せられた。また、樋口氏の今後の活躍を期待して実行委員長より奨励賞および副賞(図書券5,000円)を授与した。

その後、ポスター賞受賞式(別紙3, 図6, 別紙4)、総合討論、および会計報告(別紙2)を行ってから、本会を閉会し、集合写真(別紙3, 図7)を撮影して解散とした。北九州市立大学の西浜先生に、次回、第34回大会の世話人をお引き受け頂いた。

以上

( 別紙 1 )

第 33 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 プログラム

第 1 日目 令和 5 年 7 月 14 日 ( 金 )

12:30-13:00 参加受付 ( 学習交流プラザ )

13:00-13:10 開会式

13:10-14:20 若手の会学生企画① グループワーク

「若手研究者がつながる交流プログラム」

14:20-14:30 休 憩

14:30-16:10 若手の会学生企画② 特別講演会

特別講演(1) 【14:30-15:15】

九州大学大学院 工学研究院 堺 裕輔 氏

「肝臓組織を育て続けた 20 年～工学と医学の立場から～」

休 憩 【15:15-15:25】

特別講演(2) 【15:25-16:10】

鹿児島大学大学院 理工学研究科 五島 崇 氏

「なるほど ファインバブルの世界-泡のひみつを探ろう！」

16:30-17:30 交流会

第 2 日目 令和 4 年 7 月 15 日 ( 土 )

09:00-09:30 受付

09:30-11:15 ポスター発表 ( 学習交流プラザ )

A セッション 【09:30-10:20】

ポスター張替え 【10:20-10:25】

B セッション 【10:25-11:15】

11:15-11:35 休 憩 & 移 動

11:35-12:00 若手の会学生企画③ 博士への招待 (稲森会館)

九州大学大学院 工学府 応用化学専攻 樋口 亜也斗 氏

12:00-12:30 優秀ポスター賞表彰式・総合討論・閉会式

( 別紙 2 )

第 33 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 会計報告

○収入		○支出	
九州支部 討論会補助金	¥530,000	会場使用料	¥75,090
学生企画 補助金	¥100,000	表彰関係費(賞状・図書カード)	¥36,690
南九州化学工学懇話会 補助金	¥100,000	学生企画費	¥55,877
石油学会ジュニアソサイアティ	¥20,000	交流会費	¥161,329
		講師 旅費・謝金	¥79,763
		アルバイト料	¥125,400
		雑費	¥40,370
収入計	¥750,000	支出計	¥574,519
		Q・NET 活動費へ編入	¥175,481
		(収入計 - 支出計)	

( 別紙 3 )



図 1 学生企画① グループワークの様子



図 2 学生企画②招待講演の様子 (講演者: 五島 崇 氏)



図3 交流会の様子

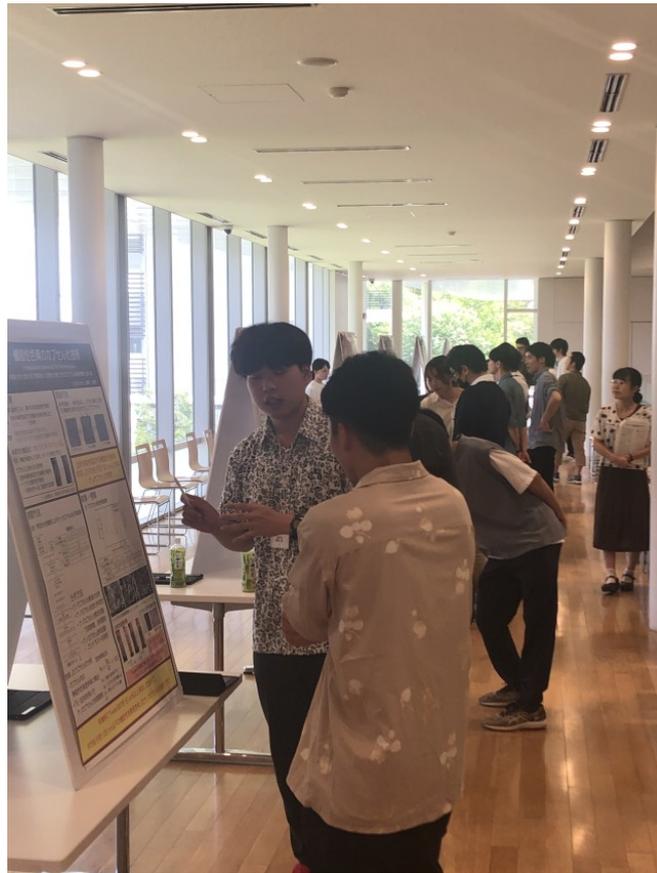


図4 ポスター発表の様子



図5 学生企画③ 博士課程学生の講演の様子 (講演者: 樋口 亜也斗 氏)



図6 ポスター賞授賞式の様子



図7 参加者集合写真

( 別紙 4 )

第 33 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞受賞者

---

氏名	所属
浦 琢真	福岡大学
牛崎 そら	宮崎大学
木許 花菜	鹿児島大学
細川 裕平	鹿児島大学
山内 優奈	鹿児島大学
氏田 峻ノ介	鹿児島大学
大山 陸	鹿児島大学
後藤 啓太	鹿児島大学
難波江 友紀	九州大学
松井 武次郎	九州大学
平川 琉偉	有明高専

---